

平成二十八年十月十五日(土)
平成二十八年十月十六日(日)

晋山結制式典のしおり

慈眼山瑞岩寺
新命二十七世 長谷川俊道 和尚

わたしたちの宗旨は

宗名 曹洞宗（禅宗）です。

本尊唱名 南無釈迦牟尼佛

伝統 曹洞宗はお釈迦さまより歴代の祖師がたによつて相統されてきた正伝の仏法です。

教義 わたしたちはみな仏の子であり、生まれながらに仏心を具えています。しかし、それに気づかず、我がまま

日本開宗 曹洞宗は今から八百年ほど前、鎌倉

時代に高祖道元禪師さまが我が国に

勝手の生活をして苦しみ悩みのもとをつくっています。

伝えて、ゆるぎなき基礎をささずかれ、四代目の太祖瑩山禪師さまが一層盛んになさいました。このお二方を両祖大師と申し上げます。

ひとたび仏さまに懺悔し帰依するならば、心が落ち着いておのずから生活が調えられて明るくなり社会の役に立つことを喜び、又、どんな苦

大本山 福井県の永平寺（高祖道元禪師さま

御開山）

横浜市の總持寺（太祖瑩山禪師さま

御開山）

福とを発見するのが曹洞宗の教えてあります。

本尊 曹洞宗はお釈迦さまをご本尊として

お経 修証義 般若心経 観音経 寿量品

仰ぎます。

等の諸経典を読誦します。

首座入寺式

十五日(土)午後三時三十分

- 一、僧堂鐘一会
- 一、七下鐘導師入堂
- 一、版三下
- 一、維那白槌
- 一、知事致語
- 一、首座致語
- 一、首座就位
- 一、維那告報
- 一、普同三拜
- 一、散堂

配役本則行茶

十五日(土)午後四時

- 一、茶鼓一通 大衆入堂
- 一、住持入堂
- 一、配役奉読 告報
- 一、請けの拝
- 一、本則提唱
- 一、行茶
- 一、鼓三下
- 一、散堂

了って進退馴らし

晋山式

十六日(日)午前八時

- 一、安下処(青木一佳殿宅)
施主家供養
新命安下処出発
- 五磬三拝
- 一、山門到着 八時三十分
- 一、山門法語
- 一、大擂上殿
- 一、辞令宣読
- 一、仏殿法語
- 一、土地堂法語
- 一、祖堂法語
- 一、開山堂法語
- 一、新命退堂
- 一、散堂

晋山開堂

十六日(日)午前九時

- 一、巡版三下
- 一、上堂鼓打出
- 一、空座問訊
- 鼓一会中 頭首位入堂 問訊
- 鼓二会中 知事位入堂 問訊
- 鼓三会中 白槌師・御專使入堂 焼香侍者上方丈
- 一、大擂上殿
- 一、下語・登座
- 一、拈香法語(祝禱香・報恩香・供養香・嗣承香)
- 一、法座問訊(五侍者・頭首位・知事位)
- 一、代衆請法香
- 一、白槌
- 一、垂語 問答
- 一、提綱・自序・謝語・拈則・結座
- 一、白槌
- 一、下座
- 一、祝辞
- 大本山永平寺御專使
- 大本山總持寺御專使
- 宗務所所長
- 瑞岩寺護持会長
- 一、散堂

首座法戦式

十六日(日)午前十時

- 一、 巡版三下
- 一、 殿鐘三会 上方丈
- 一、 大播上殿
- 一、 上香 献湯菓茶
- 一、 普同三拜
- 一、 般若心経
- 一、 拳則
- 一、 拈竹篋 法問 謝語
- 一、 祝語
- 一、 普回向
- 一、 祝拜
- 一、 散堂

瑞岩二十六世大光昭雄大和尚大祥忌

十六日(日)午前十一時
導師 惠林寺大方丈

- 一、 殿鐘三会 二会中大衆上殿
- 一、 七下鐘導師上殿
- 一、 鼓一通
- 一、 上香普同三拜
- 一、 献湯菓茶三拜
- 一、 中揖三拜
- 一、 法鼓三打
- 一、 拈香法語
- 一、 読経(参同契・宝鏡三昧) 行道 焼香
- 一、 回向
- 一、 普同三拜
- 一、 謝拜
- 一、 散堂

檀信徒総回向

十六日(日)午後十二時
導師 瑞岩寺新命

- 一、 殿鐘三会
- 一、 七下鐘導師上殿
- 一、 拈香法語
- 一、 上香
- 一、 読経(観音経)行道 檀信徒焼香
- 一、 回向
- 一、 散堂

記念撮影
設齋(保育園ホール)

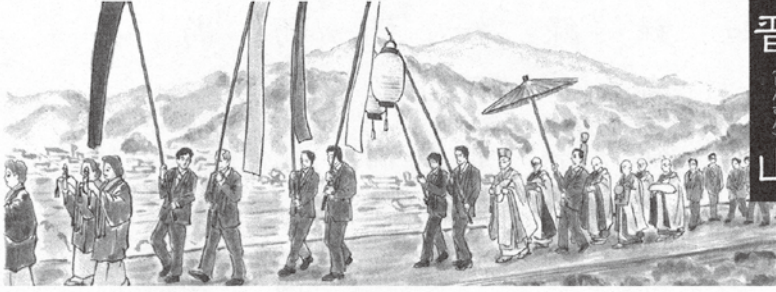
弁 法 知 殿 殿 殿
 要
 解
事 說 庫 行 行 行

源 昌 實 大 慶 惠
清 建 相 統 雲 林
寺 寺 寺 寺 寺 寺

雄 方 方 徒 副 副
大 丈 丈 弟 方 方
沙 丈 丈 弟 丈 丈
弥

晋山

(しんせん)



新しい住職が、そのお寺に正式に入ることを「晋山」といいます。

曹洞宗では、住職の任命を受け、そのお披露目の儀式として晋山式をとめます。住職の代替わりを行いますので、あまり見ることができない貴重な儀式です。式のはじめには、新命住職(新しい住職)と、檀信徒の代表の方がたが行列を作ってお寺に入り、新命住職は本堂などをお参りして、就任の挨拶をします。



*晋山(しんせん)
「晋」は進む、「山」はお寺のことです。

晋山式



晋山・結制の準備

晋山の儀式をお祝いするために、縁のある僧侶や近隣のお寺から多くの僧侶が訪れます。数十年に一度という行事であり、新命住職にとっては自らの僧侶としての活動の場を開く、檀信徒にとっては自分たちを安寧に導く住職を迎える式です。寺院を支える住職と檀信徒が一体となって準備を進めていきます。

新命住職の就任式です。本堂などをお参りして、仏さまや歴代住職などに「法語を述べ、挨拶をします。三門法語……お寺に入るにあたっての最初の法語

仏殿法語……本堂に進み、ご本尊さまへの挨拶となる法語

土地堂法語……お寺の土地・建物等を守護している諸々の仏さまや神さまに対する法語

祖堂法語……禅の教えをインドから中国に伝えた達磨さまへの法語
開山堂法語……*尚祖さま、そして*ご開山はじめ、歴代住職への法語

*法語(ほうご)
仏の教えをあらわす言葉、香を拵(たぐ)って唱える言葉。
*尚祖さま(りょうそさま)
道元さまと瑩山さま。
*ご開山(ごかいざん)
そのお寺を最初に開いた和尚さまのこと。

晋山開堂

寺院に入った新命住職は、多くの人びとを導く説法を行うための場所を開きます。そのために、法を説くところ（法座、須弥壇）にのぼり、仏さまや、歴代住職、檀信徒のご先祖さま、自分のお師匠さまなどに、法語をお唱えします。

祝禱香……

*一仏両祖に供養し、世界の和平と人びとの幸せを祈願する焼香

報恩香……

ご開山はじめ、歴代住職に対して恩に報い、感謝を述べる焼香

供養香……

檀信徒の方がたやそのご先祖さまを供養し、各家の発展と子孫の幸せを祈念する焼香

嗣承香……

お師匠さまに対し、自分を育ててくれた恩に報いる焼香



*一仏両祖（いちぶつりょうそ）
お釈迦さま、道元さま、瑩山さま。

説法・問答

それぞれの方がたに法語をお唱えした後は、その場に集うすべての人びとを導くための説法を行います。

まずは、その場に集まる僧侶が、新命住職に説法をお願いします。そして、この説法を見守る白槌師という方が、槌と呼ばれる木の仏具を鳴らして問答の開始を合図します。

問答は特に禅の修行に関する質疑応答です。それぞれ思うところを十分に、新命住職に質問します。

問答の後、新命住職は改めて禅の真実の教えを示し、さらには自省し、この説法に参加したすべての方がたに御礼をします。白槌師は、最後にまた槌を鳴らし、素晴らしい説法であったことを証明します。

結制



お釈迦さまが定められた制度にしたがい、大勢の修行僧が一カ所に集まって修行することを、*結制といえます。

インドでは、四月から七月にかけて雨季となり、雨が降り続きます。それにより姿を見せる小さな生き物を踏み潰してしまわないように、お釈迦さまはこの期間、寺院にこもって修行することを定めました。

*結制（けっせい）

建物の中にこもることから、安居ともいい、特に期間が九十日に及ぶため、九旬安居といえます。各地でその季節に合った安居が行われていますが、現在日本では夏と冬の二回行います。

請首座法
(首座入寺式)

結制を行う場合には、集まった修行僧の先頭に立つ「首座和尚」が必ず置かれます。そのお寺に住む若い僧侶がつとめる場合や、他の寺院から呼ぶ場合などがあります。そして、一寺の住職として結制安居の修行を終えた新命住職は、大和尚と呼ばれるようになるのです。

首座法座
(首座*法戦式)

首座が住職に代わり、禅の修行やさとりについての問答を交わす儀式です。これはお釈迦さまが靈鷲山で弟子の摩訶迦葉に席をゆずり説法させた故事にならったものです。

首座を中心に儀式をみてみましょう。



*法戦式【ほっせんしき】
法戦式は、問答を交わすことから法の戦い、すなわち法戦式といわれます。

拳心経……参列の僧侶が、般若心経を誦経します。
拳則……首座が*本則を唱えると、*弁事が頌(詩)を唱える。弁事は小さな子どもがつとめることが多く、見どころの一つ。

拈竹篋……首座が住職から*竹篋を授かり、さあ、だれでも何でも質問してこい、という意味の言葉を発して、問答がはじまります。

法問……首座と修行僧との間で問答が戦わされます。

謝語……問答が終わると、首座はお礼をいい、竹篋を住職に戻し、お拝をします。

祝語……役につかれた僧侶からお祝いと、励ましの言葉をいただきます。



竹篋

*本則【ほんそく】

法戦式での問答の課題

*弁事【べんじ】

法戦式で首座に仕える役職

*竹篋【しつぱい】

弓形の竹の杖。人を説得するときに用いる



晋山結制の宝塔の誓願

当寺山門に角塔婆が建っています。晋山結制を鑑み、その供養のため祈願と誓願を込め、この山（慈眼山）がこの寺が、この僧（仏の教えを慕う人々）が積功累徳仏法が永遠のものであるようにと東西南北それぞれに示しております。

まず正面には

「大圓鏡智 山門茲勤修晋山結制辰奉供養 本尊十一面觀音菩薩專祈所 正法興隆 檀信歸崇 諸緣吉祥宝塔」
文字通り、ここ瑞岩寺にて晋山結制を嚴修供養するにあたり、当院ご本尊 十一面觀音菩薩様に、正しいみ教への導きにより、檀信徒皆様方とより深く、さらに、良き仏縁で結ばれることをお祈りいたします。

その右側面には

「成所作智 銘日 歷世嘗々護法城 積功累徳正圓成 徳不孤而必有隣 晋山須積功千鈞」

お釈迦様より二千五百年代々途絶えることなく続いている仏法を護り、すべてのご縁の方々は功を積み徳を重ね今、まさにここに仏法は現前としております。そのお徳を慕い、多くの方が四方より瑞岩寺に集い、晋山結制に因み、皆様とともに功徳を積み、仏法が栄えますように。

その左側面には

「平等性智 経日 無垢清浄光 慧日破諸闇能伏災風火 普明照世間 悲体戒雷震」 観音経より。

仏さまの曇りのなき清浄の光は諸々の闇を照らし、世間の災いも苦しみも普く救ってくださいます。仏さまの授けてくださる戒は雷のように大きな力を持ってお守りくださいます。

裏面には

「妙觀察智 維時 平成二十八年十月十六日 慈眼山 瑞岩寺 二十七世 新命瑞光俊道恭敬謹誌」

瑞岩寺第二十七世俊道新命は晋山式を勤めるにあたり、誓願をもって瑞岩寺の住職として檀信徒の皆様方を敬い慎み、之に服して参りますと誓ったものであります。

大圓鏡智

山門茲勤修晋山結制辰奉供養本尊十一面觀音菩薩專祈所正法興隆檀信歸崇諸緣吉祥宝塔

維持平成二十八年十月十六日慈眼山瑞岩寺二十七世新命瑞光俊道恭敬謹誌

成所作智

銘日歷世嘗々護法城積功累徳正圓成徳不孤而必有隣晋山須積功千鈞

お釈迦様より二千五百年代々途絶えることなく続いている仏法を護り、すべてのご縁の方々は功を積み徳を重ね今、まさにここに仏法は現前としております。そのお徳を慕い、多くの方が四方より瑞岩寺に集い、晋山結制に因み、皆様とともに功徳を積み、仏法が栄えますように。

平等性智

経日無垢清浄光慧日破諸闇能伏災風火普明照世間悲体戒雷震

仏さまの曇りのなき清浄の光は諸々の闇を照らし、世間の災いも苦しみも普く救ってくださいます。仏さまの授けてくださる戒は雷のように大きな力を持ってお守りくださいます。

妙觀察智

維時平成二十八年十月十六日慈眼山瑞岩寺二十七世新命瑞光俊道恭敬謹誌

瑞岩寺第二十七世俊道新命は晋山式を勤めるにあたり、誓願をもって瑞岩寺の住職として檀信徒の皆様方を敬い慎み、之に服して参りますと誓ったものであります。

お礼の挨拶

本日の晋山しんさん結制けつせい、江湖こうこう会法要を修行するにあたり、西堂・白槌師をお引き受け下さいました宝林寺御住職瀧川宏道老師をはじめ慶讃師諸老師、尊宿・配役のご寺院様、また今般の式典に際して諸事多難な折にもかかわらず、多額の御浄財をお寄せいただき、温かいご法愛を賜りました当山檀信徒の皆様に対しまして、無事円成できましたことを先ずは心より厚く御礼申し上げます。

本日の盛儀を迎えさせていただきましたことは、ひとえに皆様のお陰と感謝申し上げます。次第でございます。前住職の後を継承し、寺門の興隆と檀信徒の皆様方の為に、一層の精進努力致す所存であります。今後とも相変わります、ご支援とご協力を賜りますよう心からお願ひ申し上げます、お礼の言葉といたします。

平成二十八年十月十六日

慈眼山 瑞岩寺 住職

長谷川 俊道 九拜

檀信徒総代 青木一佳 合掌

檀信徒副総代 林敏市 合掌

護持会世話人一同 合掌

